

・・・・・・・・・・・・・・・・ 理事長さんのひとり言 ・・・・・・・・・・・・・・・・

Come come everybody how do you ・・・

昭和 20 年 8 月 15 日、日本は戦争に負けました。私は小学 3 年生のときでした。

あの時代の忘れられない出来事を、今も鮮明に覚えています。昭和 19 年、私たち家族は海軍の航空隊がある大分県宇佐飛行場の近くに住んでいたのです。空襲のない日はないくらいでした。朝、学校に着いたばかりなのに警戒警報のサイレンが鳴り、家に向かって走ったものです。

昼間、米軍のグラマンが低空飛行をしながら、機銃掃射を浴びせることもあって、アメリカ兵の顔が見えたよと母が言っていたのを思い出します。父は軍人で 10 代の若い特攻隊員の教育をしていたのです。

昭和 20 年 3 月に私を頭に、幼い兄弟 4 人は父親の故郷、鹿児島県の山村に祖父に連れられて疎開しました。サイレンは毎日のようになりましたが、敵機が空高く飛ぶ姿を見るくらいでした。田舎の小学校（当時は国民学校）には、都会から縁故者が大勢疎開しており、村の温泉は同窓会のごとく出会いの場と化していたものです。

大分から九十九里の基地に父が転勤したのを機に、母が赤ちゃんの弟と帰省したのは、20 年 6 月ころのことでした。10 か月の可愛い盛りの弟はお乳が足りず、おっぱいがたくさん出るおばちゃんに「もらい乳」をするため、学校から帰ると私が弟を背負って飲ませに行くものでした。栄養失調のうえ下痢をするようになり、薬もないので「ゲンノショウコ」を煎じて飲ませました。とうとう手の施しようもなく、亡くなったのです。

初めて私は「死」を実感し、「死」がどんなものなのかを突きつけられたと思います。葬儀が終わるまで弟のそばから離れませんでした。冷たくなってしまった可愛い弟。周りの大人たちは黙って見守り、何も言いませんでした。戦後、父が帰り私たち一家はこの山村で成長していくのです。

昭和 21（1946）年 2 月、「基礎英語」の放送が始まりました。この放送で私は英語の勉強をしたことはありません。今年 11 月 1 日から、NHK の朝のテレビ小説で、平川唯一先生の「カムカム エヴリバディ」にちなんだドラマが始まると聞いた途端、「カムカム エヴリバディ」と歌いだした自分がいました。何と「レッツオーシング、ア、ハッピーソング シング ツ・ラ・ラ・ラ」と歌い切ったのです。びっくりでした。

当時は民間放送局がなく NHK だけでしたから、夕方 6 時半にはラジオをつけており、どここの家でもどこにいても聞いていたのです。みんなと遊んでいるときも、家事手伝いで野菜を刻みながらも耳にしていました。5 年間の放送でいつの間にか覚えていたのです。

毎日、録画の番組を見ながら身につまされたり、あの頃の事を脳裏に重ねながら、時に泣きながら見ているところです。